

モンゴル語とモンゴル文字

モンゴル語はトルコ(チュルク)系、ツングース系諸言語とともにアルタイ語系を構成する。広義のモンゴル語は、モンゴル国のデルベト、バイト、ザフチン、オリョト、トルグート諸族、および中国のダフル、トゥ、トンシャ、ポウナン諸族、ロシア共和国のブリヤート、カルムイク諸族などが操る言語を指す。狭義のモンゴル語はモンゴル国のハルハ族と中国側のチャハル族やオイラート族の言語を指す。ハルハ方言が共通語としてその役割を果たしつつある。

音韻面での母音調和、文法面での後置詞(添着語)の存在、主語+目的語+動詞という語順など、日本語に似た特徴もある。

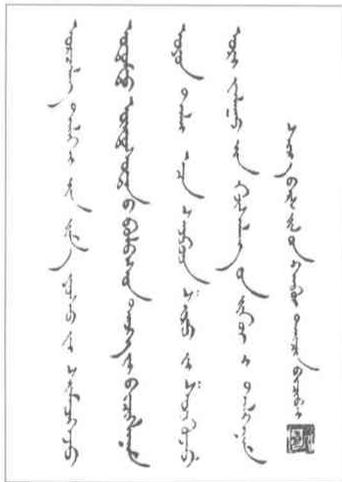
伝統モンゴル文字は、モンゴル語を表記するのに用いる文字で、左から右へ縦書きにする。一部の文字は、語頭、

語中、語末で字形が異なる。楷書体のほか、草書体、方形字などもある。

モンゴル文字の由来について、一三世紀にウイグル文字をもとにして創出したものという説、一〇世紀以前にすでに自らの文字を持っていたという説、八一九世紀頃にソグト文字(ウイグル文字のもととなった文字で、アラビア文字と同じ源を持つ)を直接受け入れてモンゴル文字を作ったという三つの説がある。

モンゴル国では一九四一年以来キリル文字(ロシア語などに使用されている文字)で伝統的表記法を切り替えたが、一九九〇年代以降、モンゴル人ナショナリズムの一つとして伝統モン

ゴル文字の復興に着手しつつある。一方、中国側のチャハル・モンゴル族は、現在まで伝統モンゴル文字を用い続けている。このように文字だけを見ればモンゴル語の表記法には異なるところがあるが、狭義の意味での共通モンゴル語としてはハルハ語とチャハル語の間には方言程度の差しかなく、お互いの言葉は通じ合っていてコミュニケーションにおいて不自由することはない。(高明潔)



内モンゴルで使われているモンゴル文字
(『蒙古族伝統生活概観』内蒙古人民出版社, 2000)